

第5回地域教育 中予ブロックオンライン集会報告書

**新・旧若者よあつまれ！
つながり方はいろいろ！
今年はオンラインでつながろう！**

かかわりをチカラに つながりをカタチに

令和3年2月14日(日)13:00~16:10

於：松山市青少年センター 3階 大ホール

(サテライト会場)

主催 地域教育実践ネットワークえひめ

協力 NPO 法人えひめ子どもチャレンジ支援機構

後援 文部科学省 愛媛県 愛媛県教育委員会

「えひめ教育の日」推進会議 愛媛県教育研究協議会

地域教育中予ブロックオンライン集会開催要項

- 1 趣 旨 中予管内において子どもを取り巻く課題解決、地域の教育力の向上、あるいは地域課題の解決等に向けて日々奮闘している人たちが、「かかわりをチカラに、つながりをカタチに」を合言葉として元気を分かち合い、新たな展望を抱ける場を設ける。特に、次代を担う新・旧若者たちが自発的・積極的に人・もの・こととつながりながら、地域づくりを共にひろげていく取組の活性化を図る。
- 2 日 時 令和3年2月14日(日) 13:00～16:10
- 3 場 所 松山市青少年センター（3階大ホール） 松山市築山町 12-33
※ サテライト会場として開設
- 4 主 催 地域教育実践ネットワークえひめ
- 5 後 援 文部科学省 愛媛県 愛媛県教育委員会 「えひめ教育の日」推進会議
愛媛県教育研究協議会
- 6 協 力 NPO 法人えひめ子どもチャレンジ支援機構
- 7 テーマ 新・旧若者よあつまれ！つながり方はいろいろ！
今年はオンラインでつながろう！
- 8 内 容 (実践発表 15分×3)

13:00 13:10 14:45 15:00 16:00 16:10

開 会 行 事	アイスブレイク 実践発表及び 発表者へのインタビュー	休 憩	ブレイクアウト セッション 各セッションの発表	閉 会 行 事
------------------	----------------------------------	--------	-------------------------------	------------------

(1) 開会挨拶 地域教育中予ブロック集会実行委員会委員長

(2) 実践発表

ア 伊予市地域おこし協力隊（上田 沙耶 氏）

イ 松山大学 V. Y. S. 部

ウ 愛媛県立松山工業高等学校

<ファシリテーター(聞き手)>

まちづくり学校双海人 教頭 富田 敏 氏

(3) ブレイクアウトセッション

～若者による実践発表を通してみんなで語り合おう～

(4) 閉会挨拶 地域教育中予ブロック集会実行委員会副委員長

9 参加費 無料

10 参加申込み 締切：令和3年1月18日(月)

参加希望者は、所属・氏名・連絡先（電話番号・mail アドレス）・サテライト会場への参加の有無を下記のアドレスにメールで送信するか、チラシ裏面の様式にて FAX で申し込む。

<申込みアドレス> okada-makoto@pref.ehime.lg.jp^{エル}

<問合せ先> 地域教育中予ブロック集会実行委員会事務局 岡田 誠

松山市北持田町 132 番地 Tel:(089) 909-8780 Fax:(089) 941-6873

開会行事

【事務局・岡田】

ただ今より、地域教育中予ブロックオンライン集会を始めます。開会にあたり、実行委員長・眞鍋幸一がご挨拶を申し上げます。

開会挨拶

地域教育中予ブロック集会実行委員長

眞鍋 幸一

みなさんこんにちは。本日は第5回地域教育中予ブロックオンライン集会にご参加いただき、ありがとうございます。

令和2年度は、新型コロナウイルスのため、大変な年になりましたね。高校生は約3か月間学校に行けない日が続き、大学生はその後もリモート学習など、普段の当たり前の生活が当たり前にできないという事態に陥りました。

人が集い、語り合うこと、みんなとともに喜ぶことが、こんなに大切なことだったのかを思い知る1年となりました。

今回は、そのような状況の中で、Zoomを活用したリモート開催と致しましたが、なんと例年より多い141名もの方に参加をしていただきました。ありがとうございます。特に、高校生、大学生の参加が多いことに感動しています。

この会は、新旧若者が集い、日々奮闘していることを語り合い、「かかわりをチカラに、つながりをカタチに」を合言葉に元気を分かち合い、新たな展望を見つけ出すことを目的にしています。そして今日は、ふたみファンクラブ・上田沙耶さん、松山大学V.Y.S.部、愛媛県立松山工業高等学校のみなさんの三つの実践発表の後、ブレイクアウトセッションで語り合います。

対面で語り合うことはできませんが、リモートの特性を生かして、積極的に語らい、つながりながら、笑顔で地域づくりを共に広げてきましょう！

最後に、ウィストン・チャーチルの言葉を紹介します。

「風が一番高く上がるのは、風に向かっている時である。風に流されている時ではない。」

「決して屈するな。決して、決して、決して！」

「変転する状況のただ中で、一人の人間が終始一貫性を保つただ一つの可能性は、全てを支配する不変の目標に忠実でありながら、状況に応じて変化することにある。」

今日はよろしく願いいたします。

【事務局・岡田】

次に、参加にあたっての連絡事項についてご説明します。

まず、ブロック集会の趣旨についてですが、ご覧いただいております画面のとおり、「かかわりをチカラに、つながりをカタチに」を合言葉として元気を分かち合い、新たな展望を設けることを目的に開催しています。今年度は、コロナウイルス感染症対策の

ためオンラインでの開催としました。顔を合わせて会を開くことができればよかったのですが、集まるのが難しいため、今年度は新たな取組にチャレンジしました。オンラインでの開催のため、今回は県外からもご参会いただいております。

次に本日の会の流れについてですが、開会行事終了後、アイスブレイクのためにブレイクアウトセッションを2回行い、自己紹介やお題についての紹介をしてもらいます。その後13:25からファシリテーターや団体の紹介、その後高校生・大学生による実践発表、発表者へのインタビュー、14:45から15:00まで休憩を挟みまして、15:00から15:30ブレイクアウトセッション、15:35から16:00まで1グループ2分程度での発表を行い、情報共有をしたいと思います。16:00から講評を行い、16:10から16:15から閉会行事となっております。時間的にかなりタイトなスケジュールとなっておりますが、ご協力の程どうぞ宜しくお願い致します。

15:00からのブレイクアウトセッションでは、様々な年齢が混在するようにグループを作っております。ぜひ、積極的・主体的に参画していただき、かかわり、つながりを広げていただけたらと思います。また、情報交換をするためにチャット機能を使っただいて、名刺交換をするなど、つながりづくりをすることができます。ぜひ活用されてください。

さらに、様々な年代、所属、立場の方がいる交流集会です。お互いが気持ちよく参加するため、次の点に御協力願います。「リスペクト」「認め合う」「情報管理」。Zoomを使った集会ですので、円滑な運営のため、次の点に御協力願います。よろしくお願ひいたします。

最後に、アンケートについては今回QRコードを読み込んでいただく形でお答えいただきたいと思います。集会の最後にも改めてお願いしますが、チャットにもQRコードを載せておきますので、ご回答をよろしくお願ひいたします。

それでは、長くなりましたが最後に記念撮影を行いますので、「笑顔で」「ポーズをとって」「いいよ、と言うまで」よろしくお願ひします。

(撮影)

ありがとうございました。以上で開会行事を終わります。

アイスブレイク

【事務局・岡田】

それでは、この後、アイスブレイクのために、ブレイクアウトルームに分かれます。時間は5分間ですので、時間になると自動的に退出することになります。また、進行役はいませんので、遠慮せずに進んで自己紹介を始めてください。待っているとアツという間に終わってしまいますよ。それでは、ブレイクアウトルームへの入室案内があった方から、入室してください。また、自己紹介プラスのお題は、好きな都道府県です。それでは、ブレイクアウトセッション1回目を行います。

(ブレイクアウトセッション①)

どうでしたか？皆さん自己紹介は行えましたか？お話しいたぐときはミュートの解除をお忘れなく。それでは、2回目を行います。次のお題は、みなさんいろいろな地域にお住まいだと思ふので、ざっくりと「地元のオススメのもの」です。

(ブレイクアウトセッション②)

2回目、お疲れさまでした。楽しい声が聞こえたり、質問なども交わされたりして、お顔も分かつたのではないかと思います。また、実践発表の後で交流を深めていただければと思います。

また、みなさん、申し訳ありませんが、お名前の表示を漢字にさせていただいて、お名前の後に「学生」「ファシリテーター」などを入れてもらえると助かります。

実践発表

【発表者紹介：司会・浅野さやか】

みなさんこんにちは。実行委員の浅野と言います。よろしくお願ひします。

富田さんについてご紹介します。富田敏さんは東京都出身で平成23年6月に伊予市双海町下灘地区に移住されました。その際、「地域おこし協力隊」として交流事業、双海町の魅力を発信するための仕掛けを様々に考え、地域の活性化のために貢献されました。任期終了後もまちづくり学校双海人の教頭などをされておられ、地域にとって欠かせない存在となっております。

次に、発表団体について紹介します。

まず、ふたみファンクラブの上田沙耶さんです。現在、大学生でもあり、伊予市の地域おこし協力隊でもあります。21歳大学在住中に、横浜から愛媛県の双海町へ移住を決意するまでの経緯や思い、地域おこし協力隊としてやっている現在の活動と半年間の振り返りなどをお話ししていただきます。テレビや雑誌でもよく紹介されておられ、双海町のアピールをいつも熱心にされておられます。

次に、愛媛県立松山工業高等学校防災リーダーの皆さんです。各学年・各学科から防災リーダーを募り愛媛大学防災リーダークラブや保育園、各小中学校と連携して防災啓発活動を継続されています。防災に関する出前授業の様子や県外の学校との交流の様子について紹介していただきます。

最後に、松山大学V.Y.S.部のみなさんです。地域の児童福祉に貢献することを活動理念とし、先輩からの伝統を引き継ぎ地域に根差した活動をされています。地域の小学校や児童館で子どもたちと一緒に楽しめるイベントを企画し運営しています。V.Y.S.部の紹介と、近年に行ったイベントの内容について紹介していただきます。

それでは、富田さんこの後の進行よろしくお願ひします。

【進行：富田さん】

富田です。みなさんこんにちは。あらためましてよろしく申し上げます。

ご紹介いただいた順番で発表させていただきます。所要時間は15分ずつ。3団体が全て発表し終わった後で、みなさんからの質問やご意見をうかがっていきますので、3団体の発表にご注目をお願いします。

では、まず「ふたみファンクラブ」の上田沙耶さん、お願いします。

実践発表①【ふたみファンクラブ・上田沙耶さん】

みなさん、はじめまして。「ふたみファンクラブ」の上田沙耶と申します。ご紹介いただいたのですが、今、青山学院大学の経営学部4回生に在籍をしています。4回生になった時に地域おこし協力隊として伊予市双海町に移住してきて、今、「ふたみファンクラブ」というのを設立して活動しています。一応大学は卒論も多分大丈夫なので、卒業できそうです。

生まれは松山、3歳から徳島、小6で横浜に住んでいたのが、愛媛に暮らした記憶はないのですが、帰省で帰ってきていた父の実家がある双海町に去年の春から暮らしています。

父の実家は、双海町上灘の駅前、商店とかレストランとかをしていて、毎年お盆とお正月に帰省して親戚と遊んだり、商店のお店番を手伝って褒められたりした思い出が自分の中に魅力的に残っていて、大好きなまちでした。でも、段々と双海町は人が少なくなって寂しくなっていたりとか、じいちゃん・ばあちゃんも「こんなに人口が減って、商売にならん」と嘆いたりしているのを聞いて、「なんとかしたいな」「このままじゃいかん」と思って、移住したいと思っていました。

初めはゲストハウスをしたいと思ったんですけど、それが大学2回生の後半ぐらいで、そこから「とはいえ、何すればいいだろう」とすごく迷った時期がありました。1年半ぐらい。ここ（当時の写真）に富田さんも映っていますけど、富田さんや双海の人や東京の知り合いにすごく相談して、「こういうのやりたいんだけど、どうすればいいかわからない」と悩みまくっていたんですけど、イベントに呼んでもらって手伝いに行ったりとか、友達を呼んでみてばあちゃんのところ泊らせたりイベントしてみたりして。

そういうことをしている中で、就職とか進路とかを控えた時に考えていると、「やっぱり3年間は修業した方がいいよ」とか、いろいろな大人に言われたんですけど、全然興味のない会社に入っても、双海でやりたいことは固まってきているから、その3年間で逆に自分の中では難しいんじゃないかな、とあって、就職よりもこっちに来ることを3回生の時に決めて、4回生になるタイミングで、地域おこし協力隊に応募して移住してきました。なので、「愛する双海を守りたい」という思いでやっていて、もっともっと双海の良いところを知ってもらって、双海が好きで人が増えて欲しいなと思っています。

双海町なんですけど、「沈む夕日が立ち止まる町」として有名でして、一番有名なのは下灘駅。県外の方でもこの写真を見たら「なるほど」と分かるかもしれないんですけど、こういった魅力的な観光資源があります。去年の春から移住してきて、最初、何をしようかという時、こういうきれいな景色を生かして、友達にも来てもらっていたので、そ

の延長で観光とかをやりたいと思っていたんですけど、なんせコロナ・コロナで、わたしが来た4月も「自宅待機2週間」から始まりました。その中で観光とか言っている場合ではないな、と思ったときに、オンラインショップというので双海の魅力的なものを外に届けるというサービスを始めようと思いました。すぐにインターネットでショップを作り、鱧とか双海の魅力的なものを届ける「ふたみおうち便」というのを始めました。双海町の下灘というところには漁港があるんですけど、鱧という魚がたくさんとれて、単体の漁港では漁獲量が日本でも一番じゃないかと言われていたぐらいでして、そういった鱧だったり鯛だったり双海でとれるものやじゃこ天など、あとは老舗のパン屋さんが作っているしぐれとか、そういうものをおうちに届けるというサービスを、4月に来て6月にはすぐ始めていました。

この鱧をとっている漁師さんたちがすごくイケメンでして、すごく仲良く話をさせてもらうんですけど、この人たちもすごく熱い思いと、自分のとってきた魚に誇りをもっているんで、ただただ鱧や鯛を届けるだけではなくて、こういった生産者さんがこんな思いでとってるんだぞ、というのを伝えるというのをメインでやりたくて、「双海図鑑」というメディアを作って、冊子を同封しています。

他にも、旅行に行けなくなって、旅行会社さんも困っているんで、オンラインで楽しめるように、ということで、「あうたび」という会社があって、そこと一緒にオンラインツアーというのをして、実際に食べ物を送って、食べてもらいながら双海町を案内するというようなこともしました。

あとは、鱧という魚は鮮魚で送ると賞味期限が短くて取り扱いにくかったりとか、販路拡大する時に難しかったりするので、それを加工品にする、というのもして、今、宇和島水産高校さんとコラボして、鱧の缶詰の開発を去年の夏からやってきて、この前、ちょうど3年生が卒業するタイミングで一区切りしたんですけど、鱧の炊き込みご飯がレシピとして一応仕上がったので、それをもとにFM愛媛さんとこれから共同開発しているという話が進みつつあるところです。

あとは、パスタソース！個人的に鱧のトマトソースとかアヒージョとかがとても美味しくて、それを瓶詰にして送れないかな、というところでいろいろな試作をしているところです。

他にも、漁師さんだけでなく、ミカン農家さんも双海町にはたくさんいるので、そのミカンも売ったりしているんですけど、それも生のミカンだけだったらやっぱり冬しかないんで、夏の農家さんの収入にもつなげられるように、農家さんがジュースを搾ってくれて、「パッケージと売るのは、お前に任せるからやってくれ」って言ってくれたので、実際に、いろいろな人と相談しながらラベルデザインしてみて、販路拡大に向けてむちゃくちゃ頑張っているところだったりします。

この、「双海の〇〇」という加工品をいっぱい作って、双海のブランドとしてどんどん増やしていければと思っています。あとは「ふたみファンクラブマルシェ」と言って、下灘駅の前で、実際にそういった商品を販売してみたりだとか、エミフル松前で販売してみたりしています。

双海町、観光という面、「来てもらう」というふうに言うと、下灘駅というところにす

ごくたくさん人が来ていて、無人駅なのに人がごった返すぐらいの観光スポットになっているんですけど、とはいえ、下灘しか知らない、みたい。自分の友達から連絡があっても「双海行くんだけど、下灘以外に何があるの？」と聴かれたりするの、そういうところを知ってほしくて、「ふたみロマンきっぷ」というのを考え、企画しています。これは、町内の移動と、選べるごはん券と、体験とお土産が選べるという3個のものがセットになったチケットで、こういうものも今年からは作っていきたいと思っています。

あとは、最初に言っていた「ばあちゃんちでゲストハウスを作りたい」というのが一番最初の思いとしてあって、実際、上灘の駅前であって、すぐそばにシーサイド公園もあって、屋上からは海も見えるオーシャンビューだったりもするので、こんな素晴らしい立地と箱があるんですけど、実際レストランもどんどん使われなくなって、ばあちゃんも「自分だけじゃできないかな」というところで半休業状態だったりするので、そういう所を使って、もう一度人が集まる場所にできればいいなとすごく思っていて。その奥に空いた部屋を宿にして、外から人から来た人も泊めてあげて、地元の人向けにもコーヒーを出せるような場所にして、「場づくり」もしていきたいと思っています。

この「ポパイ」なんですけど、移り変わりの歴史の写真が出てきて、一番左の青いやつが最初のところですね。ひいじいちゃん・ひいばあちゃんの代から始まったんですけど、最初は下灘の山奥に住んでいたらしくて、それが「こんな田舎に住んどっても話にならん！」と駅前の好立地に土地を買ってまずはこういうようなお店をひいじいちゃんが建てたみたいです。それからバブルが来て、こんな大きい建物に改築して、3階建ての超でかい建物になって、その時はもう「まちじゅうの人がこの商店を使う」というような形だったんですけど、時代も流れ、国道もできて、人が外に流れるようになってからは、大型スーパーとかもできて、だんだんとすたれてきたみたい。こういう時代があって、この時代を見たときに、ひいじいちゃんがしてきたことのすごさとか、それをじいちゃんが守ってきたすごさとかは知ってるので、うちの両親、親の代はそういうのをやりたいという人はいないですし、自分がこの歴史を守っていけたらと思っています。

多くの人に来てもらって、「双海最高」と唸ってもらえたらと思っています。「双海最高！プロジェクト」と名付けたんですけど、今やっていることを図にまとめてみますと、さっき言っていた「ふたみロマンきっぷ」という、まちの情報を一元化する仕組みというのをこれからやっついこうと思っていて、そこに対して昨年までやってきた「ふたみ図鑑」とか「ふたみおうち便」というものも使って、こっちから逆に外に・全国に双海の魅力を発信していきます。盛り上げるのが、ファシリテーターでもある富田さんとか、「トゥクトゥクに乗って名物じいちゃんになりたい」と言っているおもしろいおじさんがいまして、そういう人たちと一緒にやっています。さっきの商品開発とかマルシェだったりとか、六次産業化みたいなどころだったり、あとは空き家の活用にも着手をされていて、こういうところでさらには最後の「ゲストハウスを作る」みたいなのが全て双海を魅力的にするものを増やすとか、魅力的なコンテンツを増やすというところにもつながっていて、やっていること全てが一つの目的に向かって相乗効果を生み出しているんじゃないかと思っています。

「#双海最高！」ということで、毎日、双海の夕日とか穏やかな海とか、漁師さんた

ちが船に乗って海の上を走っているところを見て毎日感動ばかりしているんですけど、本当に「双海最高！」ってこぼれちゃうぐらい双海最高なので、また皆さん来た時にはご連絡いただければと思います。以上です。ありがとうございました。

【富田さん】

ありがとうございます。時間余ってますけど良いですか？

しばしお待ちいただいて、のちほどいろいろとお話を聴いていきたいと思いますのでしばらくお待ちください。

続きまして、愛媛県立松山工業高等学校防災リーダー「みんなで守る地域の未来プロジェクト～Save Our Future～」、こちらの発表をお願いします。

実践発表②【愛媛県立松山工業高等学校】

(女子)

それでは発表を始めたいと思います。「みんなで守る地域の未来プロジェクト

(全員)

～Save Our Future 2020～」！

(女子)

松山工業高校は6年前から防災で地域貢献する取組を行っています。本校は卒業後6割の生徒が社会人となり、防災活動に取り組むことは地域の未来を考える上で大切だと考えています。

全学年全学科から防災リーダーを募集しており、1年生から3年生の28人が所属しています。防災啓発活動や出前授業等も実施しています。各学科では、2・3年生の課題研究で「ものづくりを生かした防災グッズ」というのを製作しています。

(男子)

とても工業高校らしい活動ですね。

(女子)

そうですね。また後々詳しい説明があると思いますのでお待ちください。それでは詳しい活動内容について説明していきたいと思います。

まず、松山市及び愛媛大学と連携した取組についてです。これは、愛媛大学防災リーダークラブとの連携で、松山市立西中学校さんを訪問した際の写真です。多くのイベントと一緒に参加して啓発活動を実施しています。この写真は、中学生と災害図上訓練(DIG)を行っているところです。こちらが、中学生と避難所運営ゲーム(HUG)というものを行っているところです。

(男子)

これは結構大人数でもできるゲームなんですね。

(女子)

そうですね。みんなが避難所の運営について、中学生の意見で、ゲーム感覚で楽しみながら学ぶことができます。

(男子)

続いて、道後小・西条地区防災キャンプについてです。小学生や保護者と楽しみながら防災について学習や意見交換することができました。

高浜小学校防災まち歩き防災マップ作りにも参加しました。

(女子)

これはまち歩きに参加したと思うんですけど、どうでしたか？

(男子)

小学生たちが先頭を歩いてくれて、スムーズにまちを歩いて、そして、危険なところも見つけることができたので、とても有意義な時間を過ごしたと思います。

そして、防災クイズで楽しく知識を学ぶことができました。これは小学生にもわかりやすいように、防災〇×クイズや簡単なワークショップを用いて、楽しく防災についての知識を深めることができました。

また、松山を訪問しているドイツ人留学生と防災交流も行いました。言語の異なる人への避難や啓発の難しさを改めて感じることができました。

(女子)

海外の人も増えてきてるので、やっぱりいろいろな国の言語で防災について知っておくと良いかもしれませんね。

(男子)

そうですね。そしたら避難もスムーズに行えるんじゃないかと思います。

そして、松山市の協力で、防災士資格取得に挑戦しました。今年度では本校から4人の防災士が誕生するかもしれません。

(女子)

そうですね。わたしもこの受験をしてきました。なので、いろいろな詳しい知識とかも知れたので、良い経験になったと思います。

(男子)

地域の防災リーダーとしての活躍を期待しています。

(女子)

はい！頑張ります。

(男子)

そして、内閣府三者防災研修会への参加です。行政、NPO法人、企業等の方々と、より良い被災者支援ができる体制作りを一緒に考えました。これは、高校生の参加は初となりました。

(女子)

それでは、学校独自の取組について説明してもらいたいと思います。お願いします。

(女子)

はい。それでは、学校独自の取組について説明していきたいと思います。

2018年に日本豪雨災害の被災地である吉田町での復興ボランティアに、当時の3年生が参加しました。

真砂町・小野地区合同防災訓練では、防災伝言ダイヤルや防災ずきんの作り方を伝え

たり、課題研究で防災かまどによる炊き出しを行ったりしました。各学科で防災活動に励んでいます。

また、保育園での出前授業では、ペッパーくんの防災クイズで、小さな子どもにも分かりやすく、楽しく防災について学んでもらうことができました。

(女子)

県内だけでなく、県外でのイベントにも参加しています。

この写真は「高知県高校生津波サミット」の様子です。高知県の高校生の防災意識の高さに刺激を受けました。

(女子)

今日は高知大学の方もいらっしゃるということで、ぜひ交流したいなと思います。

(女子)

また、「ひょうご防災フェスタ」にも参加しました。兵庫県立舞子高校環境防災科の生徒さんと交流し、生徒一人ひとりの防災意識の高さとやる気に圧倒されました。

(女子)

わたしたちも見習いたいですね。

(女子)

そうですね。

(女子)

また、野島断層の見学と「ぼうさい甲子園」にも参加しました。舞子高校の生徒さんと2回目の交流を行ったり、阪神淡路大震災の震源地である野島断層の見学も行ったりしました。また、今年は「ぼうさい甲子園」で「チャレンジ賞」をいただきました。

(女子)

実際に野島断層に行ってみて、どうでしたか？

(女子)

わたしも初めて断層を見たんですけど、地震のパワーを直に感じることができました。

(女子)

次に、わたしたち防災リーダーだけでなく、学校全体でも防災に貢献しています。各科の特色を生かし、課題研究などで啓発活動に活用できる防災グッズを製作しました。例えば繊維化では、防災ずきんと備蓄品、ポリ袋で作る非常食の研究を行いました。

(女子)

各学科で工夫してものづくりに励んでいます。

(女子)

また、今年はコロナ禍なので、機械科では足ふみ式アルコール噴霧器を製作し、玄関前や教室前に設置しています。

(女子)

わたしも廊下で見たことがあります。

(女子)

このような防災教育は、新型コロナ対応にも生かされています。本校では、4年前から一人一台タブレットを取り入れ、災害時、今年では臨時休校時にオンラインで授業を

行うことができました。この写真は、実際の授業の様子です。休校決定の二日後には遠隔授業を始めることができました。

(女子)

家にいながら、学校さながらの本格的な授業を行うことができました。

(女子)

また、今年は去年より活動の数は減りましたが、いろいろ工夫して活動を行っています。例えばICTを活用して、SNSやZoom、YouTubeを使ってミーティングや啓発活動を行ったり、感染防止策を講じて「えひめ教育月間ポスターセッション」にも参加しました。

また、「松山市ジュニア防災リーダークラブ」にも参加しています。クロスロードゲームや非常食作り、リアル避難シミュレーションなどを体験できるDAYキャンプにも参加したり、その一環として、小中学生と防災ワークショップにも参加しました。右上の写真の中学生は、小学生の時に防災士を取得されていて、話しているととても刺激を受けました。

また、SDG'sの考え方を防災活動や地方創生に生かす取組も行っています。そして、この考え方をもっとよく理解するために「SDG's de 地方創生ゲーム」というゲームを体験しました。このゲームを通して、SDG'sの考え方が、地域防災にとっても役立つことを体感しました。

(女子)

SDG'sについてゲームで楽しく学び、有意義な時間になりましたね。

(女子)

そうですね。

この活動に参加して、防災への知識や関心が向上し、何事にも主体的に考え、行動できるようになりました。また、異世代の方とふれあうことで、いろいろな立場でものを考えることができるようになり、コミュニケーションに自信がついてきたように思います。

そして、自分も地域を担う一員であることを自覚し、自分にもできることがある、もっとみんなを巻き込みたいと思うようになりました。

防災教育の考え方は、すべての生活の「もしも」「もしかして」という危機管理につながると思っています。防災について、全世代のみなさんが一緒に考え、行動することは、地域の未来の活性化につながります。

わたしたちはこれからも地域連携を推進していきたいと考えています。これでわたしたちの発表を終わります。ありがとうございました。

【富田さん】

ありがとうございました。

やっぱり時間余ってますけども、大丈夫ですか？

これ、画面共有でパワーポイントで作ったんですよね？で、右下にみなさんがいるんですけど、画面共有の。すごい技術ですよね。どうやってるんでしょう？

【松山工業高校生】

藤原先生がやってくれてるんです。

【松山工業藤原先生】

画面共有の中の「詳細」から、「背景をパワーポイントにする」というのがありまして。

【富田さん】

なるほど～！背景をパワーポイントにするんですね。それは考えましたね！参考にさせていただきます。ありがとうございます。では、次の発表の間、待っていただいて、その後いろいろ聞いていきたいと思います。

さあ、それでは3組目。松山大学V.Y.S.部「とっておきの体験を」という発表を、お願いします。

実践発表③【松山大学V.Y.S.部】

西川です。美馬です。よろしくお願いします。

(美馬さん)

発表の構成は、活動部門紹介、各部門の講習会、主な活動実績、今年度のV.Y.S.部の活動という流れになっています。

そもそもV.Y.S.とはVoluntary Youth Social Workersの略で、私たちは地域の児童福祉に貢献することを活動理念としています。まず私たちの活動内容について紹介します。

松山大学V.Y.S.部には活動部門というものが設けられていて、「ゲーム」「クラフト・ブース」「シアター」の3つがあります。イベントではこの3部門を組み合わせ、子どもたちに普段と違う体験や思い出づくり、学びを提供しています。

まず、ゲーム部門では、ゲーム進行の練習をしてイベントで披露するなど、ゲームの運営を行います。写真は、○×クイズというゲームの様子で、真ん中に立って子どもたちにゲームの説明をしているのがゲームリーダー、両脇に立って○と×のカードを持っているのがゲーム補助です。この部門では、ゲームが盛り上がり成功したときに達成感を味わうことができます。人前に立つのが苦手な人も、ゲームをして子どもたちの笑顔を見ると自分にも自信がもてるようになります。

クラフト・ブース部門では、工作をしたり、ミニゲームなどのブースを運営したりします。クラフトでは、工作の苦手な子どもの補助やアドバイスを行い、一緒に工作を楽しみます。ブースは企画し、作成したものを、イベントで子どもたちに遊び方を教えながら補助をします。また、バルーンアートは子どもたちに人気で、イベントでバルーンアートをプレゼントしたり、一緒に作るバルーン教室を実施したりしています。この部門では子どもたちだけでなく保護者の方たちとも話す機会があるので、良い経験ができます。

シアター部門では、紙芝居・パネルシアター・人形劇を行います。写真は、左側がパネルシアターの様子、右側が紙芝居の様子です。例年のものを参考にしながらシナリオや道具を一から作ることもあります。大学祭や各地のイベントで披露していますが、毎回子どもたちに良い反応をもらっています。

次は、イベント本番までに行う練習や、部員の技術を高めるために行っている講習会についての説明をします。

まずはゲーム部門の講習会について紹介します。ゲーム部門では新しいゲームの開発や、イベントに参加する子どもたちの年齢や活動場所に応じたゲームを選び、複数のゲームの組み立てを考えます。イベント前の練習で、ゲームリーダーは、子どもになりきった部員を相手に、子どもたちに向けて紹介するのを想定して言葉遣いや身ぶり手ぶりを見てもらいます。例えば、広い部屋で行うときは自分が思っているよりも大きく声を出して声を張らないと説明が聞こえないといったことがあります。これは誰かに聞いてもらわないとわからないことが多いので、よく指摘がある代表例です。

また、イベント時に前に出てゲームをする部員だけでなく、子どもたちの間に入ってサポートを行う部員はどのように動けばいいのかという勉強も行っています。ゲームは、部屋を大きく使って歩き回ってするようなものもあり、子どもたちの安全にはサポート役の働きが重要なので、本番で起こり得ることを想定して、対応を考えています。

次はクラフト・ブース部門の練習と講習会の様子です。クラフトはハサミやカッターを使うこともあるので、対象年齢に応じて使う道具を考えます。また、ゲームやブースでは出しにくい季節感は、クラフトで出すようにしています。以前に私たちのイベントに参加してくれた子どもたちに出会うこともあるので、クラフトの種類やデザインのための材料を変えるなどして、新鮮さを感じてもらえるよう工夫しています。そして、実際に作り、クラフトの難易度の見直しだけでなく、説明書の不備や口頭での説明についても、教える側と教えられる側の両方から出し合い、改善に努めています。

ブースは、同じものでも難易度を変えて、何度でも楽しめるようにしました。子ども目線で実際に遊んでみて、改善点を見つけたり、良い所を話し合ったりします。ブースも怪我をするような遊び方にならないか、ブースに使う道具が危険なものにならないかななどを考え、安全を第一に遊べるよう工夫しています。またバルーンアートは特に好評なので、多くの部員がいつでも作れるよう部員同士で教え合って技術を磨いています。

次に、シアター部門の練習と講習会の紹介です。紙芝居では、仕掛けなどを使って、絵を見ながらただ話を聞くだけという状態にならないように工夫します。また実際に聞いてもらって、声がきちんと子どもたちに届くように、部員が座る位置を考えたり、どのキャラクターが喋っているのかわかるような声の出し方や抑揚を見直したりします。

パネルシアターは、一つの板の前で劇をするようなものなので、板に貼って見せるだけでなく、空中で大きく動かして人形劇っぽくしたり、貼ったりはがしたりできるという特性を生かせるような工夫をします。人形劇は、本番では、人形だけが見えるように部員の姿を隠すので、その分声を出すようにしたり、人形を大きく動かすようにしたりといった点を見直すようにします。

以上が部門ごとの練習と講習会の内容の紹介でした。

普段の活動については、主に「講習会・勉強会」と「イベント」の2つになります。月に数回、講習会・勉強会を行い、ここで得た知識や技術をイベントにつなげています。イベントは基本自分たちだけで企画しています。まず、依頼先の方と打ち合わせを行い、それをもとに計画を立て、練習をして、そして本番という流れになっています。

(西川)

では、次は依頼があつて参加した学外のイベントについて、主な活動実績を紹介させていただきます。「児童館でのイベント」「矯正展・大学祭でのイベント」「子ども会・児童クラブでのイベント」という順で紹介させていただきます。

まず児童館でのイベントです。左の写真は、子どもたちにプレゼントするためのバルーンアートを作っている様子です。児童センターのイベントに参加させていただき、「バルーン屋さん」を担当しました。このときは作ったものを渡していましたが、イベントによっては一緒に作ることもあります。右の写真は、子どもたちとゲームをしている様子です。児童館は、児童クラブや子ども会と違って、子ども同士が初対面ということもあるので、仲の良い友達がいなくても一緒に楽しめるような工夫がさらに必要になることがあります。

次に、矯正展と大学祭です。基本的にはクラフトとブースが中心ですが、ゲームをする時間も設けて、ゲームとともにパネルシアターや紙芝居、人形劇なども組み込んで披露しました。また、スタンプラリー制度も取り入れ、それぞれに参加するとスタンプを押すことができ、たまった個数に応じて手作りの景品がもらえるといった仕組みでも楽しんでもらいました。ゲームは一日の中で約30分のを3セット用意していたのですが、子どもたちの中には全てのゲームに参加してくれた子もおり、とてもうれしく感じました。矯正展と大学祭はどちらも2日間かけて行われるものであり特に大きなイベントなので、これらのイベントを乗り越えたことで、部員それぞれがやりがいを感じ、また部員一人ひとりのレベルも一段と上がったように感じられました。

最後に、子ども会・児童クラブでのイベントです。右の写真は、クリスマス会でサンタクロースに扮した部員がプレゼントを配っている様子です。今年度はイベントがほとんど行えませんでした。昨年度は児童クラブからの依頼が多く、たくさん場所でイベントをさせていただきました。屋外や屋内、体育館などイベントを行う場所の広さや子どもたちの年齢層が2、3歳～12歳までと、様々な条件に合ったものを考えることが必要で、それぞれのイベントによって条件に合ったものを考えるということは大変でしたが、子どもたちが楽しんでくれることは本当にうれしかったです。

しかし、今年度はコロナウィルス感染症の影響で接触の多い活動は控えなければならず、子ども会からの依頼は激減しました。それに加え大学からも課外活動の制限がかかったことで、依頼があつても断らざるを得ない状況が続きました。また、今年度の前半は、部内での活動においても例年のようなことを行うことが難しく、活動回数が極端に減少してしまいました。

オンラインで何かできないかと検討しましたが、わたしたち自身がオンライン環境で何かをするということにも慣れておらず、例年なら週に1回行っていた部会も回数を減らすことになってしまいました。また、4月当初から活動に制限がかかっていたので、

新入部員を勧誘するためのビラ配りとかオリエンテーションなども全て中止になってしまい、新入生の入部が少なかったです。SNSを活用してサークルの紹介をし、新入生にどうにか知ってもらおうと試行錯誤しましたが、知ってもらうことがとても困難でした。

秋になって、入部してくれた新入生向けに体験会を開き、ゲームとクラフトを体験してもらいました。ゲームやブースは、複数人が一度に遊べて、かつ部員同士の間隔を開けて遊ぶことのできる「魚釣り」を行いました。クラフトは、大学生が体験するものなので、小学校高学年の子ども向けのクラフトの中で、季節に合ったものとして「パンプキンの小物入れ」を作りました。

そして、今年度にはもともと松山大学全体で部室の引っ越しが予定されていたので、この部室移動を機に、部室にある道具や材料、書類などを点検しました。古くなって使いづらくなっていたり、破損したりしているなどで活動において危険だと思われる道具を処分したり、過去の活動の際に作った物とか、作るために集めた材料などを選別したりして、次の活動のときに使いやすくなるよう見直しました。

12月の初めには地域の子ども会から依頼でクリスマス会を計画していましたが、再びコロナウィルスの感染が広まり始め、直接触れ合うような活動は控えるべきと判断し、プレゼントを贈るのみとなりました。このときはイベントの代わりとしてのプレゼントなので、普段のクラフトでは取り入れないもののうち、スノードームを作ることにしました。作成についても、感染対策を踏まえて少人数で作りました。これまでに「手作りのプレゼントを贈る」ということはしてこなかったのが初めての試みとはなりましたが、依頼先の方から「子どもたちが喜んでいた」という言葉とともにプレゼントを渡したときの様子を写真で送っていただけて、とてもうれしく思いました。

今後の活動として、春休みにはオンライン講習会が実施できないかと検討しています。講習会は、道具を使ったり、実際に体を動かしたりといったことが必要になり準備が大変ですが、多くの部員が以前のように部活に参加できる環境を整えたいと考えています。また、4月に入ってから新入生勧誘が始まるので、今年度の新入部員の話も聞きながら、多くの学生にV.Y.S.部の存在を知ってもらえるようにしようと考えています。

いろいろと紹介させていただきましたが、最後は、わたしたちが活動していると思う松山大学V.Y.S.部の魅力を、簡単に紹介させていただきたいと思います。

一つ目は「成長」です。日々の活動に参加することで長所が伸びたり、新しい自分を発見できたりします。V.Y.S.部に入部して身についた力は「人前で堂々を話せるようになった」「企画力が身についた」など人によってそれぞれですが、活動にしっかり取り組めば、必ず何か成長できる部分があると思います。

二つ目は「やりがい」です。イベントの準備や練習の成果が子どもたちの笑顔や素直な反応ではっきりとわかるので、その姿を見て、「頑張ってる良かった」「次も頑張ろう」と思うことができます。また、そのような子どもたちが喜んでくれる反応は、とても励みになっています。子どもたちと接するたびに元気をもらえます。

三つ目は「楽しさ」です。部員の多くが、「子ども好き」「ボランティアが好き」という理由でV.Y.S.部に入部して活動を続けています。人と触れ合う楽しさは、一人で遊ぶ楽

しさと違ったものがあり、普段わたしたちがふれあう機会のない小学生や幼稚園・保育園の年代の子どもたちとふれあう楽しさは、大学生同士で遊ぶ楽しさとは全然違います。ゲームやバルーンアートなどは、子どもたちにとって普段は体験できないことのようにですが、わたしたちはさらに経験できないことが経験できるので、とても楽しいです。

最後になりましたが、わたしたちV.Y.S.部はホームページを開設し、イベントの様子などを不定期に写真付きで掲載しています。「松山大学V.Y.S.部」で検索すると出てきますし、ここに載っているQRコードを読み取ればサイトに飛びますので、ぜひよろしければご覧ください。

わたしたちの発表は以上です。ご清聴ありがとうございました。

【富田さん】

はい、V.Y.S.部のみなさん、ありがとうございました。

3団体の発表をそれぞれおながいしまして、わたしの方から質問と今日参加してくれている100人あまりの人たちからも質問をしてもらいたいと思っています。見ている方はチャット機能で書き込んでいただいても良いですし、リアクションボタンで手を挙げていただいてもかまいません。

まず、今日の3団体は高校生、大学生、上田さんは半分大学生で半分社会人というところなんですけど、若い人たちがそれぞれの場所でそれぞれのことに取り組んで、非常に一生懸命やっているなど感じました。一番年齢の低い高校生から聞いてみますね。みなさんは今、何年生でしたっけ？

【松山工業高校生】

2年生です。

【富田さん】

今度いよいよ3年生で受験なり就職活動なりということになると思うんですけど、みなさん活動に入ったのは1年生から？

【松山工業高校生】

はい、そうです。

【富田さん】

ということは、丸2年ぐらい活動しているということになりますが、中学校卒業して高校に入って、全校生徒が入っているわけでもないこの活動に、自分たちで希望したり誰かから勧誘されたりとかがあると思いますが、入ろうと思ったきっかけを代表で二人ぐらいの方、教えてください。

【松山工業高校生】

(男子)

僕がこの活動を始めたのは、部活動の先輩が入っていたのがきっかけです。その先輩がとても楽しそうに活動していて、僕も気になって入ったら、いろんな被災地とか県外まで行けて、有意義な時間が過ごせて、防災についての知識も深まって、良い経験ができたと思っています。

【富田さん】

なるほど。県外に旅行がてら行ってみたいな～なんて思いもあつたんですか？

【松山工業高校生】

(男子)

それもあります。

【富田さん】

いろいろな所、そういう活動をしていなかったら見れないところもありますよね、いいと思います。

あとお一人、どなたか。

【松山工業高校生】

(女子)

この活動自体は担任の先生から教えてもらって入ろうと思ったんですけど、やっぱり近々南海トラフが来ると言われているし、高校生になったぐらいに西日本豪雨とか、災害が身近なところにも起こったので、自分なりに知識をもっておきたいと思って入りました。活動していると、本当にいろいろな人から話が聞けたり、普段だったら行けない小学校・中学校とかも行けたりするので、いろんな世代の意見が聞けたりして良い活動だなと思っています。

【富田さん】

なるほど、素晴らしいですね。他の仲間もそういうきっかけで入ってきているんですかね。けっこう自主的に参加するイメージですか？

【松山工業高校生】

(女子)

そうですね。入りたいという希望があれば自由に入れる感じです。

【富田さん】

そうして積極的に活動していくという。これは部活動ではない？

【松山工業高校生】

部活動ではなく、なんと言うのか、、、積極的な人たちが集まった活動、です。

【富田さん】

防災に意識が高い系の人が集まる感じですね。今日も東北で久しぶりに大きな地震がありました。対岸の火事・遠いところの話ではなく、いつこのあたりでも起きるか分からないことなので、ぜひ積極的に情報発信していただきたいと思います。

続きまして、松山大学V.Y.S.部のお二人。今どのぐらいの部員がいらっしゃいますか？

【V.Y.S.部西川さん】

50人弱ぐらいです。

【富田さん】

すごいですね、50人！今日はその中から、キャプテンと副キャプテンが参加してもらってますけど、50人の代表ですから、そういった意識の高さを感じます。そもそも、大学に入ってからこの活動に参加したのだと思いますが、この活動を始めたきっかけをそれぞれお聞かせください。

【V.Y.S.部西川さん】

実はV.Y.S.というのは高校からあるんです。自分は高校でも活動していて、大学では入ろうか悩んでいたんですが、その時、大学の中でPC技術を磨く講座のようなものがあった。班構成で活動するんですが、そこで横に座った学生が「V.Y.S.にすごく興味がある」という話になって、その班のリーダーの2年生がV.Y.S.の所属だったので「じゃあ紹介してあげるよ」という話になって、一気に「入ろう」ということになりました。

【富田さん】

なるほど。じゃあ大学に入る前から、高校の頃から携わってきていたということですね。なるほど、ありがとうございます。

【V.Y.S.部美馬さん】

わたしは中学校ぐらいの頃からボランティアには興味があって、いろいろ参加していました。大学でも入るならボランティアサークルに入りたいと思っていて、その中でV.Y.S.があることを知って、体験会に行ってみたら、先輩たちの雰囲気がとても良くて、和気あいあいとした雰囲気がすごく好きだったので、友達も「入ろう」と言っていたので、入ることにしました。

【富田さん】

なるほど、筋金入りのボランティアですね！

では、上田さん、お待たせしました。上田さんはちょっと特殊で、現役の大学生でありながら地域おこし協力隊。青山学院大学というと駅伝で有名ですけど、「いい大学だな」という印象があって、普通そういう大学に行くと、いい会社に勤めて、高めのお給料も

らって、キャリアアップしていくようなイメージがあるんですが、その道は選ばなくて双海町にやって来た。その動機などはさきほどの発表でうかがいましたが、大学で過ごしていく中での将来像の変化の過程って話せますか？

【上田さん】

最初の頃は、OLとかになると思っていたころもあって。マンションで暮らして東京でOLとかするんだらうな、と。高校3年生の頃から、指定校推薦でみんなより早く大学が決まって、でもその時も良い大学に行きたいとかがなかったから、余ったところで青学の経営に行つて。それよりも、余った期間で、バイトもしてたしお金もあったから旅しよう、と。一人旅をして出会いもあって、そこから一人旅にはまって、大学1年生の時も一人旅をして、海外にも行ったりして、いろんな価値観が広がって行って、いろいろな生き方があるんだな～みたいな、いろんな大人としゃべって、いろんな人がいるんだとか、人よりもふれあうことが多かったんじゃないかと思つていて。

最初ヨーロッパに行ったとき、自分の知識のなさ、イエスキリストの教会見ても、そもそもキリスト知らないからよく分からない。自分の馬鹿さに呆れて、こんなふうにはバイトばかりして、遊んでばかりじゃだめだと思つた時があつて、そういう時に、ばあちゃんのところ好きなのに、行つても遊ぶ人もいなくなつちやつたし、寂しいし、、、とかがいろいろ重なつてきていた、というのは、なんとなく思つます。

【富田さん】

なるほどね。でもやっぱりちょっと普通じゃないのかな。大学入つてバイトでお金貯めて海外行つちゃうっていうのは、よく聞くような話ではあるけど、そんなにいっぱいはいないかな？大学では、友達とかいないほうですか？

【上田さん】

そうですね。大学の入学式の時、高校生の最後の頃から始めていたバイト先の新しい店舗がオープンするという時で、それに興味がありすぎて、入学式でみんなは友達作りを頑張つてる中、自分はバイト先の友達しかできなかった。

【富田さん】

なるほどね。何となく人となりが分かつてきたような気がします。ありがとうございました。

質問に戻りますけど、松山工業のみなさん、メンバーが変わりましたね。よろしくお願ひします。

防災、とにかくここ数年、来月で東日本大震災から10年ですが、防災ってなくてはならないものになりましたよね。まちづくりという部分でも。それはやっぱり東日本大震災がきっかけなのかな、と思うんですが、みなさん、10年前は？

【松山工業高校生】

小学1年生ぐらいです。

【富田さん】

じゃあニュースの映像は後から見たぐらいで、当時の記憶はほとんどないですね。

【松山工業高校生】

ないです、全然。

【富田さん】

たとえば今、愛媛県で最も警戒しなきゃいけないものという地震や津波、あるいは台風の風水害などもあると思うんですけど、大きな範囲の愛媛県でもいいですし、身近な範囲でも良いんですけど、「防災」ということで考えたとき、何か「足りない」点、「こういうところが不足しているな」とか、それは「人」のことで「もの」のことでいいので、感じてことがあれば聞かせてもらえますか？

【松山工業高校生】

(女子)

わたしは愛媛県では「地域全体で」という点に関してはまだまだだなど思っていて、多分、高齢の方もそうだし、小さい子からも全員が参加しないと「地域全体」と言わないんじゃないかと思っていて、そこを取り巻いてやっていくというのは、わたしたち高校生や大学生、社会人の方が協力していくと、子どもたちとかも高齢の方も協力してくれるんじゃないかな、と思っています。

【富田さん】

なるほど、たしかに、高校生が一生懸命頑張っていて、今日も高知大学の同じような取組をしている方も参加してくださっていますけど、その一方で、全く興味ない人がまわりにいっぱいいたら、自分たちばかり頑張ったところで、というところありますよね。

たぶん今日ここに参加してくれている人の中には、高知大学のみなさんもそうですが、他にも防災とか、実は僕も防災士なんですね。自主防災会をやったり消防団もやったりするので、興味があるんですけど、会場の中にもいらっしゃると思うんで、あとで「地域全体で防災についてこんな取組やってるよ」というのがあったら、逆に聴いてみましょうね。

では、V.Y.S.部のお二人。発表の中で後半にふれていただきましたが、コロナですね。

子どもたちとの活動が多くなってくると、接しないわけにはいかないですね。本を読むにしても大きい声で読みたいし、いろんな活動でも触れ合いながらやりたいところですが、一応、ワクチン接種が始まりますが、当面まだ続きそうという中で、このコロナの時に黙ってやり過ごすのか、それとも「こんなことやってみようかな」という、コ

ロナにうちかつような活動って、考えていることありますか？

【V. Y. S. 部西川さん】

一時考えたのは、オンライン上での絵本の読み聞かせですけど、実際にやったのは、発表した事例のクリスマス会でプレゼントを作製して贈る、というのが今年初めてのころみでした。

【富田さん】

昨年はもう、やりたくてもやれないという状況だったと思うんですけど、お二人は今2回生ということで、4回生になったら自分のことをやらなきゃいけなくなってくると思いますが、ぜひ来年などは、コロナに負けないというか、コロナだからこそできること、オンラインなんかは特にね、コロナだからこそできること、というのを活動に加えて頑張っていたきたいと思います。

では、上田さん、もう一個ぐらいお伺いしたいと思います。まず、「地域おこし協力隊」というのを30秒ぐらいで教えてもらえますか？

【上田さん】

はい。地域おこし協力隊というのは、国が地方創生のためにやっていて、移住定住のためにお給料をくれて、3年間、お仕事をしながら移住定住のために頑張っていく、という仕組みです。

【富田さん】

そうすると、今、学生さんで4年生で、地域おこし協力隊が1年目だからあと2年あって、学校は卒業できそうだと。ということは、3年後には独り立ちということになりますよね。その後、就職するのか、横浜に帰るのか、はたまたゲストハウスの夢をかなえるのか、というところだと思いますが。また、もしも夢をかなえて、そのゲストハウスをどういう所にしたいと思っていますか？

【上田さん】

協力隊になったのは、双海に来たいという思いがあった後なので。協力隊になりたくて双海を選んだわけではないので、よく「協力隊終わったらどうするの？」と聞かれるんですが、特に何も変わりません。

【富田さん】

さきほど発表してもらった内容で突き進んでいく、と。

【上田さん】

ゲストハウスは難しいとっていて、まだまだ考えが固まってはないんですけど、やりたいと思ったきっかけは、もともと家に自分の友達を呼ぶのが好きで、その延長で、

双海っていう大好きな場所に引っ越しても、東京とかにいる友人に遊びに来てもらって、双海で遊んでもらって、「うち泊まっていったらいいよ」っていうノリのゲストハウスになったらいいのかな、っていうまだまだぼんやりとしたところを磨いていこうと思っ
ます。

【富田さん】

いつオープンできるか分かりませんが、ぜひみんなも利用してくださいね。

では、チャットでコメントをいただいていますので、読んでみたいと思います。

「若い人たちの準備活動や真摯なかかわり方を私たち大人も見習わなければならない
ところですよ。刺激をありがとうございます。」ですって。ありがとうございます。

「ロマンきっぷは、凄くまとまった、観光してくる人に優しい良いアイデアだと思
いました。参考にさせてもらいたいです。」ありがたいですね。

「西日本豪雨を経験しているけれど、なかなか地域に浸透しにくいんです。職場や保
育園と防災について、地元の高校生にもヒントをもらえるようアプローチしてみようと思
いました。」早速、高校生とのコラボというか、協働を考えている人がいるということ
ですね。

「コロナ禍でそれぞれ工夫した活動をされていて素晴らしい。コロナで活動ができ
ないと嘆いている大人が多い中、今後、ウィズ・コロナになるのか、アフター・コ
ロナになるかわからないが、どんな活動を目指していくか教えてください。」
教えてください、
なので、教えてもらいましょうかね。

高校生、答えられますか？コロナ禍における防災、ということよ。

【松山工業高校生】

コロナの影響で直接交流することができないので、このような Zoom などで、画面
越しにですけど、幅広い世代とか、大学生の方とか離れたところに住んでいる方と交
流するような活動をしています。

【富田さん】

なるほど。コロナの前にはきっとその場所を訪れてたんだよね。東北とか、訪れる
のが一番良いんだろうけど、それができないからこそオンラインで。やってみると意外
に、遠く離れた人にわりとすぐつながれるな、という感じはありますよね。

あと、「災害時のために児童クラブと学校が協力してマスク等を備蓄しています。」
っ
ていう活動をしている方が、取組を教えてくださいました。

また、「松山大学の V. Y. S. とオンラインで繋がった子どもたちとの遊びができたら、
田舎にも大学生と触れ合うことができるんじゃないかと思っ
ています。期待しています。」なる
ほどね、そういうこともあり得るんですね、オンラインでは。多分今までは、大学生の
行動範囲内、学校からこれぐらいの距離の子どもたち、という範囲でふれあってたのが、
ものすごい山奥の子どもたちとオンラインでつながったりするのかな、と思っ
ています。そ
ういうのができると良いですよ。もうちょっといただいています。

「災害時にスマホなど活用しての情報共有はとても便利と思われるのですが、地域では高齢者が防災担当のため、なかなかむずかしいです。」なるほど、地域の防災担当の高齢化ということですね。

「ぜひ若い方がそのあたりの情報をお伝えいただければと思います。」そういう、情報機器の使い方を、使える人が使いづらい人に教えてあげるといいう仕組みですよ。そのへんも考えて欲しいな、というアイデアです。

「松山工業の皆さんへ。地域の自主防災組織で防災士として活動しています。ちょうど3月に町内の防災訓練を計画しています。皆さんはご自身の地域の防災活動への参加はしていますか？」ということで、高校生のみなさん、ご自身の地域の防災活動に参加していますか？という質問ですが。

【松山工業高校生】

(女子)

防災リーダーとしては、お誘いいただいた地域の防災活動と一緒に行って、わたしたちのもっている知識をみなさんにお伝えしたりだとか、逆に、その地域の防災で気をつけなければならないところだったり、その地域の防災の備えだったりとかを学んだりしているので、今回、いろいろな場所の方がいらっしゃると思うので、みなさんのいらっしゃる地域での防災活動に、ぜひ呼んでいただければ、わたしたちも学びに行きたいですし、みなさんにわたしたちのもっている知識を少しでも良いので伝えられたらいいなと思っています。

【富田さん】

あっという間にもう時間が来ておりますので、最後に一言ずつ。聴いている100人の人たちへ、メッセージを。上田沙耶さんから。100人が目の前にいると思ってPRしてください。

【上田さん】

みなさん観ていただいてありがとうございます。

双海の美味しいものいろいろと売ってるので、「ふたみおうち便」ぜひ検索してください。あと、富田さんたちと一緒に「双海のビーチボーイズ」というのをやっていて、「ふたみ凶鑑」というYouTubeチャンネルで頑張って情報発信してるので、いいねボタンとチャンネル登録よろしくお願いします！以上です。

【富田さん】

はい。僕の名前も出ましたけど、YouTube やってるので、今日100人いますから、少なくとも50、いいねが増えないと困りますのでよろしくお願いします。ありがとうございました。では大学生、よろしくお願いします。

【V.Y.S. 部西川さん】

V. Y. S. 部の活動を一応記録しているサイトが「松山大学 V. Y. S. 部」と調べると出てきますので、わたしたちがやっている活動、過去の活動になりますけど、ぜひ確認して欲しいと思います。そして、身近に子どもさんがいたり、子ども会や児童クラブに参加している子がいるのでしたら、アフターコロナにはなりますが、その際にはぜひぜひクリスマス会だったり、送る会だったり、そういうことをこちらで企画して運営していきますので、ぜひ依頼していただけたらと思います。よろしくお願いします。

【富田さん】

連絡先はそのHPにある、と。

【V. Y. S. 部西川さん】

はい、部あてにメールを送れるところがあります。

【富田さん】

では、最後は高校生、元気よくお願いします。

【松山工業高校生】

松山工業高校も、HPに今までの防災の活動だったり、YouTubeにも活動が載っていると思いますので、みなさんに見ていただきたいですし、今回、いろいろなところの方がいらっしゃって、高校生の方や大学生の方もいらっしゃると思いますので、これからみなさんと一緒に活動していきたいなと思っています。

(全員で) よろしくをお願いします！

【富田さん】

はい、ありがとうございます。では、わたしの進行はここまでで終わります。みなさん本当にどうもありがとうございました。またこのあと後半もぜひ楽しんで、楽しい一日にしましょう！

では、事務局の方、お願いします。

【事務局・岡田】

それぞれの活動内容、また、新しい課題も見えてきて、みなさんのご参考になったのではないかと思います。

それからさきほどチャットのことが出てましたが、双海の上田さんから YouTube のアドレスなどが載せてありますので、ぜひご覧いただけたらと思います。また、このあと休憩になるのですが、V. Y. S. 部さんや今日本部にいらっしゃってる児童文化研究会さんがCMを作ってくれていて流しますので、活動の内容、ぜひご参考にしていただけたらと思います。

★富田さんが紹介しきれなかったチャットの書き込み

「一緒に活動するというのも取り組んでみると面白いのではないかな。」

「若者だから気づくこと、若いから正義感をもって行動できること・・・期待感でいっぱ

いです。」

「久米では岩手県から実際に使用した仮設住宅を移転して災害モニュメントとして活用しています。」

「昨年、西条市立小松中学生有志が、地域の防災士、西条市危機管理課、小松高校生とDIG つくりをして、地域の危険度を学習できました。工業高校さんの活動は地域にとって、心強いと思いました！」

(休憩)

ブレイクアウトセッション

【事務局・岡田】

それでは時間になりましたので、ブレイクアウトセッションを始めさせていただきます。

ビデオがオフになっている方は戻してください。グループごとのファシリテーターは事務局で事前に決めさせていただいております。ファシリテーターのみなさんは各グループで発表者を決めてから進めていただけたらと思います。まず簡単な30秒程度の自己紹介をしていただいて、それから、実践発表の内容を聴いての感想だったり、みなさんの活動のアピールだったり、さらに詳しく聴いてみたいようなことも情報交換しながら、進めていただければと思います。

途中で実行委員会の者が記録のために途中途中で入っていきますが、気にせずに進めていただければと思いますのでよろしくをお願いします。

(各自、割り当てられたブレイクアウトルームへ)

【ルーム】F…ファシリテーター

F「お名前を言っていきますので、どういう活動をされているのかお話を。」

*「小学校の先生をしていて、今現在松山市内の小学校に勤務してます。地元は西予市です。」

*「教育学部の学生です。〇〇という団体で松山市を中心に幅広い年齢の人とかかわりながら活動しています。」

*「旧若者です。〇〇小学校で放課後子ども教室で週に一回活動しています。」

*「〇〇高校で、実習をしたり食品のことを学んだりしています。」

F「今日はどなたに誘われてご参加を？」

*「先生方から参加してみない？と。」

*「愛媛県の〇〇課というところに勤務しています。」

*「〇〇高校1年生です。防災リーダーズクラブに参加しています。」

F「三つの発表を聴いた感想をお願いします。」

*「わたしと同年代の人たちが積極的に地域のためとか子どものために活動していることを知って、わたし自身も刺激を受けたし、活動に生かせることは生かしたいと思いました。」

*「去年は児童館に行って活動したり、視覚障害者のS T Tというスポーツのお手伝いをしに行ったり、様々なボランティア活動をしました。インスタやツイッターにも掲載しています。」

*「今日の大学生や高校生の話を聴いて、自分も交流会など、いろいろなことに挑戦してみたいと思いました。」

*「とてもいいなって感じました。松山大学さんの子どもたちとの交流で『やりがいや楽しさを感じている』というのがいいな～と思いました。」

F「〇〇高校では、授業の中で地域に出て行ったり、地域の人と協力する活動が増えている印象ですが、どうですか？」

*「〇〇祭という行事で、ジャムやクッキーの販売をして地域の人と交流する機会があります。今年はコロナで開催できず、学内販売をしました。」

*「先輩がパンのコンテストで賞を取ったり、発表をしたりしています。僕たちもパンの大会に出るのを先生から聴いているので、楽しみにしています。」

F「ぜひぜひ二人の名前を新聞で見るのを楽しみにしています。」

*「初めて知る活動もあって、すごいと思いました。自分たちの活動にも取り入れて、活動の幅を広げていきたいと思いました。」

*「自分も〇〇小学校でのまちあるきで、小学生と一緒に危険なところをチェックして回りました。自分の地域でもやったほうがいいな～と感じたので、参加して良かったです。」

F「小学生との活動で、教えることもあり、学ぶこともあり、、という感じですね。」

*「県外に行って防災に関する知識を広げたいと思っています。」

*「学校ぐるみで防災の活動を応援してくれているのがすてきですね。」

*「学校に勤めていると世界が狭くなっていて、大学生や高校生があんなに考えて活動していることに驚きました。」

*「地域おこし協力隊のお話を聴いて、自分の地元にもこんな人が来てくれたらと思いました。」

【事務局・岡田】

有意義なお話のできたのではないかと思います。笑顔の方が大変多い印象です。

これから各グループで話し合った内容について、全体でも共有したいと思います。各グループの発表者の方、2分程度で「こんな話が出たよ」というのを、細かくは無理だと思いますので、ざっくりとご報告いただければと思います。

(1班)

高校生・大学生がいらしたので活動を紹介してもらいました。ボランティアで障害者向けイベントのサポートをしているというお話をいただきました。伊予農業高校の生徒さんは、地元の食材を使って商品開発に取り組んでいるそうです。2事例については今後ぜひ発表してもらいたいのかな、と思いました。

後半は防災の話が中心になりましたが、子ども向けのV Y Sの活動にも防災学習を取

り入れてみたり、双海の地域おこし協力隊の方のところへ行って、ボランティアや防災の活動をしたりとか、つながって一緒になって活動するような取り組みもおもしろいんじゃないかという話がありました。

【事務局・岡田】

さらにつながりを、ということですね。素晴らしい発表でした。

(2班)

今日の発表を聴いての感想や自分の活動について交流しました。幅広い年代の方と、有意義な交流の時間になりました。

高校生からは「発表を聴いて、自分たちも挑戦できることに取り組んでみたい」「今日学んだことを自分たちの活動にいかしたい」という感想が聞かれました。

大人の方々からは「今の若者がこんなに積極的に活動できるとは、と驚いた」「地域のために活動する姿を尊敬する」「活動のレベルがすごく上がっている」という声がありました。

コロナ禍の社会で、自分たちに何ができるかを考えて行動することが大切なことだというメッセージもいただきました。

【事務局・岡田】

内容が大変充実していたことが分かりました。ファシリテーターさんがチャットに「時間が足りなかった」と書いてくださっています。

(3班)

発表者の上田さんがいらっしゃったので、上田さんを中心に話を進めました。

「上田さんのアイデアはどこから来ているんですか？」という質問に、「良いアイデアを見つけたらどんどん真似をしている」「本屋さんとスタバが一緒になっているお店で過ごしている中で、良いアイデアが生まれる」というようなお話でした。「行動力はどこから？」という質問には、「周りの大人がサポートしてくれるから、社会人経験はないが大人が教えてくれるし、社会人経験がないからこそ、失礼承知で行くからこそ、そこからのかわりが生まれる」ということでした。

高校生の方は、伊方高校の「せんたん部」で、高校の魅力を発信しているということでした。地域愛は小・中・高と、続けて育んでいく教育が大切なんだというお話もありました。

また、児童文化研究会の紹介を、というお言葉をいただいたので、この場を借りて少しお話しさせていただくんですけど、児童文化研究会は、V.Y.S.部さんと活動内容は同じような紙芝居や人形劇などをやっているんですけど、異なる点としては、市外・郊外の少人数の小学校を対象に、夏休みや冬休みに一泊二日で学校をお借りして、子どもたちとキャンプファイヤーだったり、グラウンドにレンガでかまどを作って飯盒炊飯をしたり、運動会や教室で遊べるボーリングや手作りのゲームで遊んだりしています。長くな

りましたが、以上です。

【事務局・岡田】

今後につながるアイデアとかモチベーションとか、未来志向の話ができていたんだと思います。

児童文化研究会さんは、去年から実行委員会で中心になって活動してくれています。どうぞみなさん、児童文化研究会をどうぞよろしくをお願いします！

(4班)

高校生や大学生の思いのある実践や熱意をまわりのおっさんたちが本当にすごいな～と感じながら話を聴かせてもらいました。その中で、コロナ禍で対面で会えない中、オンラインを活用して、でも、オフラインでの出会いも大事にして取り組んでいる実践であるとか、地域のつながりづくりの大切さが見えてきました。

そして、大人たち。仕事上のつながりであっふあっふになっているんじゃないかという話から、自分の住んでいる地域を大事にしていかないと、という話になりました。

また、どうして高校生がこんなに熱意のある実践ができるのか、という大人からの問いに対して、友達との間で話したりとか、やってみたいことなどを友達と切磋琢磨して実践に移している、という姿を感じさせてもらって、大人たちは大変刺激をもらい、自分も明日から頑張ろう、と思えました。

【事務局・岡田】

自分自身を見つめなおすきっかけになったんだな、と、自分自身もそうだったと感じました。

(5班)

大人たちが若者の行動力に驚かされた、というお話が多かったんですが、話し合いを3点にまとめました。

1点目は、持続可能な取組にするためにするにはどうすればいいのか、ということについてですが、これに対しては「つながりの大切さ」ということでまとめられました。大学生からは「学校の存続が危ぶまれた際、地域の方々や企業さんの協力があって、何とか今も学校が続いている」という話がありました。

2点目は情報発信についてです。さきほどの「つながり」としてはもちろんですが、松山工業高校さんは「学校宛ての文書とか先生に連絡をもらえたらいつでも行きます！」と仰っていたので、ぜひご連絡してみてください。特に防災リーダーの人数が28名ということで、イベントの機会を増やしたいということです。

3点目は「つながりには様々な形がある」ということです。子どもたちとの活動が例にあがったのですが、松山工業高校さんでは防災教育の中で子どもたちと関わる、松山大学V. Y. S. 部さんの活動ではボランティアの視点から子どもたちとのかかわりを見出す、伊予農業高校さんでは各々の課題研究に取り組んでいるそうですが、食品化学科さんで

は、小学校4年生を対象に栽培キットを利用して、農業や食品に興味をもってもらうという活動をしています。子どもとのかかわり一つとっても、様々なつながりの形があるということを実感しました。

この事業にも掲げられている通り、「つながり」というものを強く実感しました。

【事務局・岡田】

本当に大学生ですか？という素晴らしい内容のご紹介でした。補足することなど一つもありません！（笑

（6班）

「高校生の中でも意識の差がある」ということを高校生が述べていました。それは学校全体の中でも、グループの中でも差があり、部活、勉強、家庭など、それぞれの事情があるということが述べられました。また、高校生は「大学生の活動は、自分たちよりも広い視点で活動をしている」と感じたようでした。一方、大学生にとっては、「高校生の意識が高い！」と感じたようで、互いに尊敬し合っている感想でした。

社会人、わたしは教員3年目なのですが、わたしも学生時代はいろいろなボランティア活動をやっていますが、社会人になるとボランティアには時間が取れず、できることが少なくなりました。そんな中、後輩から「こんな活動をやっています」という報告を受けると、何もできていない自分にもどかしさを感じることがあります。でも今感じているのは、ボランティアというのは自分に余裕がある時にやるものだということです。だから、自分も余裕をもつことが大事だと思っています。余裕がない時はできることも少ないと思うので、みんなが何をしているのか、まずは知ること、それから行動することが大切だと感じました。

【事務局・岡田】

何よりも、知らないとできないと思うので、こういった場がそれぞれの情報共有の場になったことがありがたいと思います。

（7班）

どの活動でも人とのつながりが広がっているのがステキだな～というご意見をいただいています。松山工業高校さんについて、大人からは「自分たちの頃は防災という視点はなかった」「コロナ禍の中でも前向きに活動していて頼もしい」という意見がたくさん出ていました。「地域の防災が高齢化している中で、ぜひこういうステキな活動とつながって欲しい」という意見が出ていました。

V. Y. S. 部さんについては、同じように子どもたちと関わっている方がいたのですが、「真似をしたい活動がたくさんあった」とか「子育てに苦しんでいる人たちの近くに、気軽に出かける場を設けてもらえたらもっと広がるのではないか」というお話がありました。

双海の上田さんについて、「学生さんがこういう活動をしているということがとても興味深い」と。そして、「発信力がすごく高くて素晴らしい」「ぜひ双海にかかわりたいと

いう気持ちをもちました」というご意見をいただいています。

高校生からは、「来年は自分がこの発表ができるよう、頑張りたい」という前向きな感想もいただいています。最後、「イマドキの若者は素晴らしい」「無理なく継続して欲しい」というまとめの言葉もいただきました。

【事務局・岡田】

最後のほうに言っていた「自分が発表できるように」という、次へ次へという考えをもっていただいていること、ありがたいと思います。

(8班)

防災について、地域とのつながりについて話を進めました。その中で出てきた課題として、「つながりをどう深めて行けばいいか」ということ、「肝心な人が出てきてくれない」「子育て世代の人たちがなかなか参加できていない」というお話がありました。他にも、「外国の方が防災の場で交流が難しい」とか、「コロナ対策しながらの活動が難しい」とか、「そもそも防災に対する意識を高めるのが難しい」という課題がある、ということでした。

それらに対し様々な年齢層からその課題に対して何ができるかということで、高校生や大学生であればサークル活動やOB会を通じて地域とのつながりを深めたり、顔見知りを作っていくという話が出ていました。地域の方では、公民館や学校を中心にたくさんの人とつながっていくという活動ができれば、と話がありました。

【事務局・岡田】

「参加して欲しい人が参加していない」という課題、どこの会でも聞かれるんですけど、地道に続けていくことでしか解決できないのかなと思いますので、この会も地道に続けたいと感じました。

(9班)

砥部や伊予市の小学校の先生や公民館、伊予高校の高校生のみなさんと話し合いました。要点は二つで、先生の重要性について話が出た。高校生がSDG'sについていつ知ったかという質問に対して、「高校生になってから先生が教えてくれて、いろいろな取組をしたいと触発された」と言っていて、先生がキーパーソンになっていて、とても重要な役割を担っているのではないかと話になりました。

もう一つは、公民館を利用しているのが小学生だけで、中高生は部活などが大変で全然利用していないという話になりました。そういうことが「地域の防災に関わっているのは高齢者だけ」という状態につながっているのではないかと、公民館で中高生をターゲットにした行事などを行うことができれば、地域の防災が若者世代にシフトされていくのではないかと話し合いになりました。

【事務局・岡田】

キーパーソンが必要であると僕も感じています。

(10 班)

話し合いで一番出たのは「地域との連携や協力が大事になってくる」という意見でした。高校生や大学生は自分たちの今の活動を重ねて発表を聴いて、「参考にしたい」という感想でした。大人の人たちからは「このように若い人たちが地元を発信したり地元を好きになる活動をしているのは、地域活性化につながる」という意見が出ました。

また、このように地域や防災を考えるきっかけや機会を作るのが大事なので、このようなイベントの存在を知ること、参加してみる事が大事だという話が出ました。わたし自身もこのイベントに初めて参加したのですが、もっと積極的に、今日発表してくれた方々みたいに「まずは行動に移すこと」が大事だと思います。

また、大人の方々から「もっと学校や地域のつながりを大事にすべきだ」という意見をいただいて、わたしも児童文化研究会という団体に所属しているのですが、このような状況下でも、地域貢献のために児童文化研究会として何ができるのかとか、学校とこの先どのように連携していこうかな、と考えるきっかけになりました。今日発表してくださった方々の取組や行動力にとっても刺激を受けて、また、様々な年代・地域の方と意見交換ができてとても良い機会になりました。

【事務局・岡田】

刺激を受けて、知って、参加して、次はまた他の人たちを引き入れてくれるということで、次につながるんだと思います。またその気持ちを大事にさせていただけたらと思います。

(11 班)

二点です。一点目は、実践発表に対しての感想、「若い芽が育っている」「刺激された」という感想でした。二点目は、「自分の持ち味を生かしたい」という熱い気持ちが高まり、盛り上がりました。参加者としては、保護観察に関わる人、高知大学の「防災助っ人隊」、松山商業の地域ビジネス科、東雲女子大学で幼稚園の就職が決まっている方、そして放課後児童クラブなどの集まりでしたが、とにかく「自分の持ち味を生かしたい」という気持ちが高まる会でした。

また、質問が一つ出ました。「情報収集や発信をどうしていくか」ということ。これについては、本会のキーワード「かかわりとつながり」というところを見て行けば、ヒントが出るのではないかと思います。

最後、大事なんですが、個人的に。わたしは四国最先端の伊方町に暮らしていますが、コロナが収束したときには、松山でのたまり場として、小笠原さんの経営する飲み屋「おが」で、みんなで「つながり・かかわり」をもちたいなと思っています。以上です。

【事務局・岡田】

またぜひ、松山でお会いできるのを楽しみにしていますので、よろしくお願いします。

(12 班)

まず、松山商業高校での活動、「1000 日実習」というものを紹介させていただきました。「1000 日実習」は、365 日の3年間の約 1000 日間を表しているんですが、実際に企業に赴いて経営戦略やいろいろな社会での責任などを学びます。また、防災教室も一緒にやりました。そこで「こどものくに保育園」というところを訪問し、防災に関することを実際に子どもたちとふれあいながら学べる企画を考えました。

その次に、松山工業高校さんの発表についてですが、そこでは、防災の活動を県内だけでなく県外での活動も一緒にやって発信していこう、という話になりました。

また、地域に根差した活動を松山商業の地域ビジネス科がしているということで、「将来、地域に残って仕事をしていきたいか？」という話になりました。高校生は「地域に残って仕事をしたい」「将来県外に行っても、帰ってきたい」という発言がありました。

最後にお知らせになるんですけど、現在地域ビジネス科の取組として「ツアープランニング」という活動をしています。そこで松山や愛媛県の魅力を写真に撮って Instagram で発信しています。「松山映え旅」という名称で写真を投稿しているので、もし良かったら閲覧していただいたり、フォローしていただけると嬉しいです。

【事務局・岡田】

松山商業高校さんも去年からこの会に参加していただいている、いろいろな地域とのつながりをもった授業をされていますし、担当の先生も大変熱心に関わってくれていますので、またぜひいろいろな取組についてもこの会で教えていただければと思います。ぜひこの後、チャットにも情報など書き込んでください。

みなさん、ありがとうございました。大変充実した意見交換ができたことが伝わってきて、うれしい情報がたくさんありました。

講評

【事務局・岡田】

ここで本日の地域教育中予ブロック集会について、実行委員会の森脇がふりかえりをを行いますので、よろしくお願いします。

【実行委員・森脇】

実行委員会事務局の森脇です。講評をしていただく予定でした若松さんが、急な所用のため欠席されました。若松さんのお話を楽しみにしていた方も多いとは思いますが、ご容赦ください。

そこで、私から、本日の会で発表していただいた団体や、参加しているみなさんにお礼を込めて、感想を述べさせていただきたいと思います。若松さんのようなお話はできませんので、代役を務めることはできませんが、少しの間、おつきあいください。

まずは、発表していただいた団体のみなさん、素晴らしい発表をありがとうございました。一番に発表をしていただいた「ふたみファンクラブ」上田さん。テーマの「双海への愛と行動力」そのものの発表内容でした。「地元を愛す」とよく言いますよね。今回、参加している方々の中にも、地元を愛していることが原動力となって、行動されている方もたくさんいらっしゃいます。上田さんは、若者らしい発想で、地域おこし協力隊という立場で、自分の活動の場をつくっています。やる気さえあれば、いろいろな活躍の場があるのだと感心させられました。

私のことを言いますと、同じ場所に50年住んでいるのに、地元のためには何もできていません。地元は好きなのですが、行動力のない自分を反省するばかりです。

上田さんは、いろいろな視点で活動されていることが素晴らしいと思います。その中で、2点、特に素晴らしいと感じました。まず、ビジネスと関連付けていること。やはり、これからの地域づくり、地域おこしは、ビジネスを考え、地域の自立を目指すことは重要ではないでしょうか。それから、発表で示された相関図。あれはすごいですね。あれを見れば、すごい説得力があります。理論的な基盤の上に、上田さんの活動が行われていることがよくわかりました。

次に松山工業高校のみなさんの発表です。様々な活動をしていることに驚きました。まず、心に残っているのは、みなさんが楽しそうに活動をしていることです。これが高校生のいいところだと感じました。若いパワーというとおじさんくさくなりますが、やっぱり気持ちがストレートなんですよね。そして、昨日、大きな地震がありましたが、防災という社会的な課題に対して、若者のリーダーとして、きちんと向き合い、やるべきことを考えて、その達成に向けて行動する。今の熱く素直な気持ちは、後輩たちに受け継がれていく。活動が6年間継続していることは、素晴らしいことです。

発表の中で、「地域を担う一員としての自覚」「自分たちでもできることがある」と言われました。これは、上田さんと共通する部分です。地域との連携を推進する上での大切な考え方だと思います。他の団体と連携を希望されていましたが、この集会にも防災活動に取り組んでいる団体も参加してくれています。発表でも言われた「積極的な人た

ちが集まっている」今後の学生さんたちの活躍に期待したいと思いますし、地域の防災リーダーとして活躍されることを期待しています。

実は、この集会5回目で、初めての高校生の発表になります。昨年度から、高校生が参加してくれるようになりました。昨年度、高校に挨拶に行きましたが、いくつもの学校が、地域課題や社会的な課題に取り組んでいます。今回参加してくれている、松山商業高校さんや伊予農業高校さんも、来年はぜひ発表をしてください。よろしくお願いいたします。

次に、松山大学 V. Y. S. 部のみなさん。本当によく勉強されていますね。この姿勢は見習わないといけません。「やってあげる」という考えではなく、「自分たちも成長する」という考えは、本当に魅力的です。みなさんも楽しんでますね。プレゼンからも、活動を通して、学生生活を楽しんでいるみなさんの様子がうかがえました。楽しいことはいいことです。そしてさらに、成長ややりがいを感じられるのは、もっといいことです。する側もされる側も、お互いが、Win-Win の関係であることが、これからの活動には重要なことだと思います。ボランティア活動や地域貢献の理想的な姿だと感じました。

また、大学生が活動してくれることは、大学生がいる中予の強みですが、チャットで、オンラインでつながれば、地方の子どもたちも大学生と触れ合えるという発言がありました。今回参加している大学生のみなさん、これを機会にぜひ考えてみてください。多くの団体が、大学生の参加や協力を求めています。実際、過去にこの集会で、社会教育団体と大学生がつながったこともあります。

大学生の活動について、「サークル活動だから」とか「ゼミだから」とかは、私は、それでいいと思います。今の活動が後輩に引き継がれていく。当事者は変わるけど、組織としてその活動は継続されていくことも、大切なことではないでしょうか。

この集会は、様々な立場で社会や地域の課題解決に向けて、日々奮闘されているみなさんが集まり、情報交換を行い、語り合うことで、元気を分かち合い、次への展望が抱ける場にしたいと思い、開催しました。特に、中予ブロックは、高校生、大学生、社会人が一緒になって、自由に語り合うことが特徴です。みなさん、ブレイクアウトセッションはどうでしたか。いろいろな気付きがあったと思います。気分的に元気になって、明日からもがんばろうと思ってもらえたらうれしいです。

さて、今回はオンラインでの開催となりました。そのおかげで、中予ブロックの集会に、東予、南予、そして東京、徳島、高知、岡山からも参加していただきました。ありがとうございました。今年は、コロナ禍の中、思うような活動ができていないという声をよく聞きました。そんな中、こうやってオンラインで集まることで、「みんなも同じなんだ」とか、「みんながんばっているんだ」とか、いろいろな情報を得ることで、みんなが元気になった集会になっていたらうれしいです。

しかし、やっぱり社会教育は、集まって、実際に顔を見て、一緒に活動したいですね。来年度は、遠方の方のみなさんとはお会いできないかもしれませんが、今の状況が終息し、みなさんが思いきり活動できる日が早く来ることを祈っています。

思いつきの感想で申し訳ありません。以上で終わらせていただきます。ありがとうございました。

【事務局・岡田】

ありがとうございました。

閉会行事に移ります前に、アンケートについてご協力をお願いします。今画面に映していますQRコードを読み取っていただくか、チャットに添付してありますので、ダウンロードしていただいて後で読み取っていただくかして、ご回答ください。もし、QRコードを読み取れない方は、事前にお送りしております用紙に記入していただいてメールにて岡田までお送りください。

閉会行事

【事務局・岡田】

ただいまから閉会行事に移らせていただきます。

閉会の挨拶を、実行委員会の副委員長・谷川玲子が申し上げます。

開会挨拶

地域教育中予ブロック集会副実行委員長

谷川 玲子

今日はお疲れさまでした。もう何十年も前になるんですが、わたしの学生の頃、図画工作科の時間に「未来のことをグループで想像して絵を描く」という課題が出されたことがあります。その時に「ボタン一つでラーメンが届いたり、ボタン一つで顔を見ながら会議ができたりするテレビ型の電話」を描いた記憶があります。そして今日、ボタン一つで顔を見ながら会議ができることが実現できました。想像した未来が、一つずつ近くなっているような気がします。

「これから先が分からない」とよく聞きますが、今、ここにいらっしゃる高校生や大学生、そして旧若者のみなさんの中には、明らかにはっきりとした、より良い社会が描かれていると思いました。その社会が実現することを願って、今日の地域教育中予ブロック集会を終わりたいと思います。また来年も、地域教育中予ブロック集会でお会いしましょう。ありがとうございました。

【事務局・岡田】

谷川さん、ありがとうございました。

オンラインでの集会で御迷惑をお掛けした点多くあったかと思いますが、大変充実した会になりました。高校生のみなさん、半日大変ありがとうございました。みなさんのおかげで大きな学びとなりました。また、発表者のみなさん、本当に時間をかけて資料を作っていただき、ありがとうございました。それから伊予農業さん、松山商業さん、大変素晴らしい活動をされていますので、今後もわたしたちに元気を与えていただけたらと思います。

ご参会のみなさん、大変ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお祈いします。来年度は、お会いできるのを楽しみにしております。ではみなさん、元気に手を振ってお別れしましょう！

皆さん退出ボタンを押していただいて御退出ください。ありがとうございました。

参加者アンケート結果

1 参加者について

- (1) **参加者数 141 名** (高校生 53 名、大学生 22 名、一般 66 名) アンケート回答数 111 名
 (R 元年度 125 名 高校生 29 名、大学生 36 名、一般 60 名)
 (H30 年度 121 名 高校生 8 名、大学生 40 名、一般 73 名)
 (H29 年度 97 名 高校生 1 名、大学生 34 名、一般 62 名)

(2) 参加者の居住地域

市 町	松山市	伊予市	東温市	久万高原町	松前町	砥部町	その他 県内	県外
人 数	68	14	1	1	1	1	19	6

(3) 参加者の年齢構成

年 代	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代
人 数	37	22	6	16	24	5	0	1

(4) 参加者の職種

職種等	学生	教職員	行政 関係者	公民館	NPO・地域 づくり団体	その 他	無記入
人 数	58	12	27	1	6	7	0

(5) 参加のきっかけ (複数回答)

きっかけ	ホームペ ージ	学校	SNS・ ブログ	チラシ	家族・友 人・知人	サークル	発表者 の紹介	主催者か らの誘い
人 数	1	11	3	25	23	14	2	43

2 満足度 (興味や関心の度合い)

☆実践発表、ブレイクアウト・セッションを通して、新たな気づきがあったり、関係づくりにつながったりしましたか。

項 目	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
割合 (%)	96	14	1	0

3 参加した理由（主なもの）

(1) 高校生

- ・ 防災についての知識を深めたいと思ったから。
- ・ 防災リーダーに所属していて、防災について考える機会があったから。
- ・ 防災リーダーの活動として多くの意見を取り入れるため参加した。
- ・ 防災リーダーとしての活動を多くの方々に知ってもらいたいと思ったから。
- ・ 色々な立場の方だったり、色々な地域の方だったりとお交流やかかわりがあるとこれからの防災リーダーの活動にいかされていくかなと思ったから。
- ・ 自分の中にある意見を、他の人たちと共有したいと思ったから、また、交流を通して様々な意見を得ることができればよいと思ったから。
- ・ 先生からの勧めもありましたが、このような機会に参加することで、自分としての経験を積みたい。また、自分も発信者として今後も伝えていくためにも、多くの人と関わることで自分としても躍動していきたいから。
- ・ 自分はまだ地域のことを全然知れてなく、それぞれの地域でどんな取組をしているのかとか、自分たちがしていることを地域の人たちにもっと意見を共有し合いたかったから。
- ・ 私は、高校で地域おこしの活動を行っており、この集会に参加させていただくことで、幅広い世代の方々のご意見や地域に対する想いなどを知ることができるのではないかと考えたから。
- ・ 私は大学進学を希望しており、進学を考える上でこの集会から学べるものがあるのではないかと思い参加した。
- ・ ほかの地域や学校の取組が知りたかったから。
- ・ 自分たちの学校で行っている活動以外で、他の地域や学校での取組も知りたいと思ったから。
- ・ 私はまだ地域のことははっきりと分かっていないので、いろいろな人と話すことで地域のよいところを発見できると考えたから。
- ・ 地域に少しでも貢献したかったので参加した。
- ・ 先生に勧められて興味があったから。
- ・ 先生に誘われて他の人の取組を知りたいと思ったから。
- ・ 学校の先生に紹介されたから。自分と年齢の近い人がどんなことをしているのか気になったから。オンラインでの集会なので参加しやすいと思ったから。
- ・ 興味があったから。
- ・ 幅広い人との交流
- ・ 約2年、地域と関わる活動を、年代問わず行って行く中で、オンラインという新たな形で交流したいと思ったから。

(2) 大学生

- ・ サークルで参加してみないかと誘われて、チラシを読んで興味をもったから。
- ・ サークルの発表があるから。
- ・ 様々な年齢や様々な地域の方々とお交流することで、みなさんがどのような活動を行っているのか、またどのような意見や意識をもっているのかを知り、今後の自分の活動に活かしていきたいと考えたから。
- ・ コロナ禍で他の団体がどのような活動をしているかを直接聞いて、自分たちの活動へフィードバックしようと思ったから。
- ・ 所属団体の紹介と共に、地域の様々な活動について知り、繋がりをもちたかったから。

- 教員を目指すものとして、地域教育について理解を深めることはとても大切なことだと思ったから。
- 教員を目指しているため、地域における多様な意見に触れて気づきを得たいと感じたから。
- 将来教育に携わる者として、地域の状況を把握したり、様々な活動をされている方のお話を聞いたりしたかったから。
- どのように地域教育がなされているのか、活動されているのかを知りたくて参加した。
- 防災と教育に興味があって、どのような実践が行われているか気になったから。
- 高校生の頃から参加しており、南予・全体集会には参加したことがあったが中予ブロックは初めてだったから(二年前の全体集会の際にふたみの紹介があり面白そうだった)と思った。

(3) 一般の方

- 松山工業高校の防災活の発表が聞きたかった。
- 高校生、大学生が地域とつながる活動をどのように行っているか知りたいと思った。Zoom でつながる集会のあり方そのものにも関心があった。
- 毎年参加しているが、今年は特に高校生の発表を楽しみにしていた。
- 若者の社会貢献活動について知り、交流をしたいから。地域教育に関する交流会へこの一年間ほとんど参加できていなかったため、少しでも多くの会に参加して自己の地域へのかかわりを見つめ直したいと考えているから。
- 学校外の方の思いや考えについて学びたいため。
- コロナ禍で思うように活動ができない中で、他団体の様子を教えていただきたかった。
- 社会教育における様々な取組の現状を知りたいと考えたから。
- 地域教育・防災教育に関わっている人たちの話を聞き、つながりたいと思ったから。
- 一昨年度から参加させていただいている。今年もたくさんの方と繋がれることを期待して、参加した。
- 地域でボランティア活動に取り組む人たちと出会いたいから。
- 地域教育についてのアイデアを知りたかった。
- 地域とのつながりを学校教育に生かしていきたいと思っているから。
- 毎回たくさん学びをいただいているので。
- 情報収集・自己啓発
- 昨年度も参加し、高校生や大学生のどんな実践をしているか聞いてみたいと思い参加した。
- 勤務地である双海についての発表や、松山大学の後輩たちの発表だと聞き参加した。双海での様々な活動や、学生の方々の活動を知り、子どもたちに伝えていけたらと考えている。

4 意見や感想、来年度の改善点（主なもの）

(1) 高校生

- いろいろな人の話を聞き、そしていろいろな年齢や所属の人と話し合うことができ、たくさんの発見があった。また、集会に参加してみたい。
- このような機会は、高校生にとっては素晴らしい機会だった。今後、いろんな進路に進むためにも必要な会だった。
- 私は今まで大勢で知らない人と話したことがなく、とても緊張したけれど、思っていた以上に楽しくて、それぞれの地域のことや自分たち伊予農の実践内容等互いにアピール、教え合いができてとてもいい会になった。
- 他の高校や大学、地域での取組がたくさん知れたし、Zoomを通して人と人との繋がりがもてた。他者の意見や考えも知る機会があってよかった。
- 今回の集会で様々な年代の方の話を聞くことができた。また、話を聞いて知るだけでなく、自分も発表して伊予農業高校について知ってもらうことができたので、とても良い勉強になった。来年も機会があればまた参加したい
- オンライン集会ということで、オフラインではつながることができなかったかもしれない方々とつながることができてとても良い経験となった。また、色々な取組をされている方々のお話を聞くことができ、たくさんの刺激を受けた。
- オンラインですることでも不具合もあったが、とても便利で楽しく良い集会になった。
- たくさんの意見を言いて、自分がこの先何に参加できるか、どのように地域に貢献できるかなどをたくさん知れてよかった。
- 今回初めてZoomを使っただけの集会に参加してブレイクアウトセッションで幅広い年代の方と意見交換をすることができてたくさんの意見を聞くことができた。
- 私たちの取組も共感していただけたのがとてもうれしかった。
- 普段かかわったり話したりすることのないような大人の人と話すことができてよかった。
- 地域の温かさを感じることでできる集会だった。実践発表者の方々の素晴らしい発表も聞いて、自分達の行動を改めて見直す良い機会になった。私がこの集会を通して強く感じたのは、高校生のボランティアへの参加をさらに積極的にすることだ。今日学んだことを今後に生かしていきたい。
- 自分たちの活動の視野の狭さや、改善点などが見つかった。
- いろいろな方がコロナ禍の中で精一杯できる取組をしていて、私もこれからできることをやろうとやる気を貰えた。参加して良かった。
- 今日の活動を通して、まだまだこの愛媛には魅力が、力があるのを知った。
- 今回、初めてZoomのオンラインでの開催ということで大変だったと思うが、途中、インターネットが切れたりして、話合いに参加できないことが多々あり、自分の意見を十分に伝えることができず悔しい思いをした。次回、もし参加する機会があれば今回学んだことも含め、新たな考えを応用できるようにしていきたい。
- 20,30代の方が少ないと思ったので、難しいとか思うが、Zoomなど利用して是非子育て真っ最中のような女性等のお話も聞きたいと思う。Zoomで話合い中にお子さんの声など実際に聞いて、いい発見になったりするのではと思う。

(2) 大学生

- 初めての参加だったが、自己紹介やテーマについてのトークも挟みながら、たくさんの学生や大人の方々の意見、考え、取組について知ることができ、自分自身もこの先なにができるのか、どのように貢献しようかを考えるきっかけになり、またそれを行動にうつすことの大切さについても感じる事ができた。ぜひ来年も参加したいと思う。
- 今回のオンライン集会で、発表者の方々や、ブレイクアウトルームでの幅広い年代の方々との有意義な交流会から私も刺激をたくさんいただいた。また機会があれば参加してみたいと感じた。
- 知らないだけで繋がれる対象がたくさんあること、様々な方がいろいろな活動をしていること、を知ることができたのがとても良かった。感想交流が思っていたより活発で刺激を受けた。
- 改めて「繋がり」の大切さを感じたと共に、他団体と関係をもっていきたいと思った。大変勉強になり、有意義な集会だった。
- Zoom の特性を活かした、普段ならかかわることのないであろう人たちと話して、貴重な見識を深めることができ、とても有意義な時間となった。
- 私は高知大学防災すけっと隊に所属していることから、松山工業高校さんのお話を聞いて、すごく親近感のわく活動を行われていることを知った。今後関わる機会があれば、またかわりをもちたいと思った。様々な視点からの意見を聞くことができ、とても良かった。
- コロナウイルス感染症拡大により様々な活動が制限される中、工夫された新たな形態でこの会を実施していただき、ありがたかった。良い時間を過ごせた。改善点としては、話し合いの時間が足りなかったことを挙げたい。すごく充実した時間で、皆さんともっとたくさんのお話を話したい！と強く思った。
- ブレイクアウトセッションの時間が少なかった。良いお話をたくさん聞けてよかった。
- オンラインでの開催でしたが、非常にスムーズで話しやすかった。ブロックごとの話し合いが今回は 30 分で丁度良い長さだった。
- オンラインでの参加ということもあり、ネットワーク環境など、心配な点はあったものの、とても良い経験ができた。
- 申し込みの際、メールに必要事項を記入して送る形になっていました。それよりは、Google フォームなどのウェブ上で、QR コードを読み込んで、簡単に応募できる方法がよいと思います。

(3) 一般の方

- 今年も良かった。続ける意味あり。繋がる意味あり。素晴らしきかな地域教育。
- こうした交流会に身を置くことで、毎回刺激、パワー、アイデア、つながり…いろんなものをいただいている。
- Zoom で繋がる集会、試行錯誤で大変だったと思うが、大変充実した学びとなった。また、明日から頑張ろうという気持ちになった。

- 今年もたくさんの方と語り合うことができた。今年オンラインでの会になり、少しさびしさもあったが、オンラインにはオンラインの良さがあることを発見した。毎年この会から元気をもらっている。
- どの発表も素晴らしかった。大学生は当然としても、高校生の活動とその報告姿勢にとても感心した。また、熱意と謙虚さが同居していて、人間としての成熟度の高さにも感心した。彼らを見る限り日本の将来は明るい。
- 多数の参加、しかもオンラインという技術を伴うホストは大変であったと思う。一堂に会することにはかなわないが、それに劣らぬ交流ができたと思う。
- 若者の行動のすばらしさに感動した。「やる気」は私たちも見習わないといけない。オンラインでの開催は予想以上によかった。可能性を感じる集会であった。しかし、やっぱり顔を合わせたの会がいいので、来年度は参集してやりたい。
- 高校生、大学生の熱心な活動とその成果から学ぶことができた。貴重な機会となった。
- 高校生、大学生の表現力や実践力がすごい！この年代からこれほどのことができていることが素敵だ。
- 高校生、大学生が地域のために素晴らしい活動をしていることが良く分かった。
- ふたみファンクラブ上田さんの双海愛。溢れている。一つのことのできなければ、次のことをやってみようとするパワーに敬服。ゲストハウス、ぜひ夢を叶えてほしい。松山大学 V.Y.S.部さん。コロナ禍でなかなか思うように活動もできないと思うが、ぜひぜひ子どもたちとのかかわりをつないでいてほしい。子どもたちも大学生から学ぶこと、たくさんあると思う。松山工業高等学校防災リーダーさん。地域防災とても大切。ぜひぜひ地域としっかり繋がって。それがまた、防災、減災につながって行くと思う。
- 若者、そして、高校生達の素晴らしい活動を知った。時間的なこともあると思うが、発表ごとに全体で質疑応答して、それからフリートーク的なブレイクアウトセッションに移っても良かったように思う。
- 今年は、Zoomでの開催だったが、グループでいろいろな世代の方と話ができよかった。実際に、面と向かってできるのがいいとは思いますが、こういう方法だと、地域関係なく参加できるのでいいのではないかと思った。いろいろな立場の方の参加者が増えると、もっと「つながる」ことになるのではないかと思う。
- 今後もライブとオンラインの併用で遠隔地からも参加できますように。
- 来年度以降、Zoomの併用も考えていただきたい。
- 音声流れなかったり映像がかくかくしていたりするところがあったので何かしら対策が必要だと思う。また、発表者・参加者がつながれるように連絡先交換または連絡方法をお知らせする時間があるとよかった。
- ブレイクアウトの使い方をもっと効率よくできると、時間が効率よく回せるのかなと思った（みんなで画面共有で感想を張り付けるなど）。一人ひとりの発言を聞いていたので、時間ももっと欲しいと感じた。
- つながる経験をもつ若者が増えて、つながる大人たちに成長できれば、もっと、社

会教育の可能性が広がるような気がした。情報機器の活用も対面の代替ではなく、良さを生かして使いたいと思った。対面かオンラインかのどちらかではなく、対面もオンラインも同時進行のハイブリットな集会ができれば面白いなと思った。

- 会場への往復の時間が要らないので、スケジュールの調整の幅が広がりうれしい。
- 接続環境の問題を解決したい。次年度の開催形態もさらに検討したい。
- もっといろいろな方々にこの集会に参加して欲しい。
- 伊予農業高校の事例発表を聴いてみたい。
- 3つとも素晴らしい発表で興味深く聞かせてもらった。来年度も高校生の活躍を聞きたい。